

# 日本茜・木偶・いけばな

特別展と特別公演



特別展 2026

4/18(土)～5/10(日)

※いけばな草月流の屋内装花は5月3日～10日

9:30～17:00 最終入館は閉館の30分前まで

入館料/一般410円、高・大310円、小・中200円

主催/阿波あかね会、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

協力/会場装花・草月会徳島県支部

書家・向井京子、徳島県立池田高校三好校

特別公演 傾城阿波の鳴門 十郎兵衛住家の段

中型の振り袖に茜染めの笈鶴をかけ、西国三十三所を  
巡礼しながら父母を探すおつるの最後は！

5/3(日) 5/4(月) 5/5(火) 各日とも11:00～12:10

	太夫(口・奥)	三味線	人形
5月3日	小原伸二・宮崎照美	鶴澤友丸	寄井座
5月4日	長野紫寿	竹本友和嘉	ふれあい座
5月5日	森口和奏・藤井登美昇	竹本友和嘉	勝浦座

【物使河原茜家元 出品】

草月創流100周年記念 徳島県支部展

「花おどる 花と生きる」～つなぐ未来へ～

5月3日(日祝)～5月5日(火祝)

10:00～18:00

会場/徳島グランヴィリオホテル

# 日本茜

## 幻の古代染料に魅せられて

草木染めで、青と赤は貴重な色です。徳島は、藍染めの天然染料「阿波藍」の生産で有名ですが、最近になって県西部に日本茜が多数自生していることがわかりました。「阿波あかね会」では、その株を採取し、苗を育てて増やし、幻の古代染料と言われる茜染めの普及に取り組んでいます。

青と赤の稀少な天然染料、阿波藍と日本茜の両方を産する徳島の豊かさを実感します。傾城阿波の鳴門に登場する「おつる」も茜染めの笈鶴をかけています。阿波人形浄瑠璃ともゆかりのある茜染めの魅力を、阿波

藍の産地、徳島から発信したいと思います。また、二〇二七年に創流100周年を迎えるいけばな草月流。その徳島県支部が、茜染めの展示と引き立て合うようないけばな会場を彩ってくださいませ。

徳島の豊かな風土の中から生まれた伝統の力を、お楽しみいただきたいと思います。

### 特別公演「傾城阿波の鳴門住家の段」あらすじ

#### 【順礼歌の段】

盗まれた主君の刀を詮議するために阿波の十郎兵衛、お弓の夫婦は名を変え盗賊に身をやつし、大阪玉造に住んでいます。仲間から、今にも追っ手がこの家へ来るのですぐに逃げるようにとの知らせを受けたところへ、父母を探す巡礼姿の娘が通りかかります。家へ上げて事情を聞いているうちに、お弓は我が子がはるばる徳島から訪ねてきたことを知りますが、ここで親子の名乗りをしたのでは、お鶴も巻き込んでしまうと考えます。早く徳島へ帰って父母の帰りを待つように、と言いつ聞かせ、涙をのんで別れるお弓。しかし、お鶴の歌う巡礼歌にたまたまず後を追ってしまいます。

#### 【十郎兵衛内の段】

お弓が出て行った後、借金返済のため金策に回っていた十郎兵衛は、帰りに、悪者たちに身ぐるみ剥がされそうになっている順礼の子を助けて家へ連れて戻ります。聞けば小判を持っているというので、借金の足しに貸してほしいと頼むのですが、子供は怖がって声を上げて泣き始めます。近所の手前、口を押さえたところ、誤って窒息死させてしまいます。そこへ戻ってきたお弓は、おつるの亡骸を見つけて十郎兵衛を責め立てます。あの時おつるを帰さなかったらと、半狂乱になり自分も責めます。この次第を知った十郎兵衛は茫然自失。折から表が騒々しくなり、大勢の捕手がやってきます。十郎兵衛は捕手を追い散らし、その間にお弓は、おつるの遺体を火葬に付し、二人は徳島へと帰っていくのでした。

### 茜染め販売コーナー

会期中限定販売。

茜染めストール、ヘアーバンド、ハンカチなど、阿波あかね会のオリジナル商品をとりそろえます。



### 阿波人形浄瑠璃定期公演



特別展と併せてご鑑賞ください。  
【演目】傾城阿波の鳴門 順礼歌の段  
【公演時間】毎日11:00、14:00

### アクセスのご案内

**お車** JR 徳島駅から約15分、徳島自動車道「徳島IC」から約5分

**バス** 徳島駅7番のりばから「川内循環バス」乗車、  
「十郎兵衛屋敷」下車すぐ。

会場・お問い合わせ  
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

徳島市川内町宮島本浦184  
Tel.088-665-2202 Fax.088-665-3683

